

よしの しゅうじ
吉野 秋二文化学部 教授
博士(文学)／京都大学ホームページ URL
なし

主な研究業績

【著書 (単著)】

- 『日本古代社会編成の研究』(塙書房、2010年)

【学術論文 (単著)】

- 「平安京を探る」(川尻秋生編『古代文学と隣接諸学8 古代の都城と交通』竹林舎、2019年)
- 「日本古代の国制と戦争」(『日本史研究』第654号、2017年)
- 「平安京跡左京四条一坊二町出土の木簡」(『古代文化』第68巻第2号、2016年)
- 「平安京跡左京九条三坊十町(施薬院御倉跡)出土の木簡」(『古代文化』67-2、2015年)
- 「三春高基邸の「店」—平安京市辺の商業—」(『日本古代のみやとを探る』勉誠出版、2015年)
- 京の成立過程と条坊制(館野和己編『古代都城のかたち』、同成社、2009年)
- 長岡宮「西宮」・「東宮」と嶋院((財)向日市埋蔵文化財センター『向日市埋蔵文化財調査報告書』91、2011年)
- 平安前期の広隆寺と周辺所領(『古代文化』第64巻第3号、2012年)
- 神泉苑の誕生(『史林』第88巻第6号、2005年)

キーワード

都城、地域社会、出土文字資料

研究テーマ Research theme

日本古代都市史研究

概要 Overview

私は、日本古代史、特に身分制論・社会集団論・徭役制論といった分野で研究を進め、2010年2月、その成果を『日本古代社会編成の研究』(塙書房)として発刊しました。本研究は、それに続くもので、二つの柱からなります。

一つは都城制研究です。私は、著書に集成した社会経済史分野の研究成果とは別に、禁苑論、条坊制論といった日本古代都城に関する学術論文を執筆しています。本研究は、これらを発展させ、長いスパンで具体的かつ体系的に、日本における古代都市の成立と展開を研究します。最近では、広隆寺周辺地域、上賀茂神社周辺地域などを対象に、平安京近郊の地域社会の形成を復原する試みに着手しています。

もう一つは、古代都城遺跡から発掘される出土文字資料(木簡・墨書土器)に関する研究です。私は、(財)向日市埋蔵文化財センター、(財)京都市埋蔵文化財研究所などで出土文字資料の解読に従事した経験があり、既に数本の学術論文を執筆しています。2012年度は、平安前期の平仮名が書かれた墨書土器の調査に、2014年度は平安京施薬院関係木簡、2015年度は「難波津の歌木簡」の調査に取り組みました。日本の古代都城は、世界的に見ても、一次史料に恵まれた稀有な研究環境にあります。その全貌を解明し、国際的視座に立った古代都市の比較研究につなげたいと思います。

応用分野 Application areas

前近代都市史研究、比較都市史研究、地域史研究、歴史資料論

共同研究等へのニーズ Need for joint research

日本古代史、特に都城制研究は、考古学・国語国文学・歴史地理学などとの重厚な学際的研究の蓄積をもちます。また京都産業大学は、日本文化研究所の設置が象徴するように、日本文化・京都文化の研究・普及に大学を挙げて取り組んでいます。観光学など社会科学分野との連携も含め、共同研究のニーズは高いと思われます。